

あひびき

公園は夜になつてからが面白い

広い芝生があつて中央にはたくましい蘇鉄が植えられてゐる

男と女は芝生に並んで横になつた

公園の周囲の高層ビルの窓の白い光

女は言つた

「入口に痴漢にお気をつけ下さいつて書いてあつたわ」

男は言つた

「愛してゐる場合はちがふ」

周囲の道路を走る自動車のライトが時々まぎれ込んだやうにして光る

しばらくして女は言つた

「ここは二度目ね」

男は言つた

「この前来たことをおぼえてゐるのか」

つづけてささやくやうに男は言つた

「この前スカートの上からふれたこと知らないだらう」

「わかつてゐたわ」

輝くやうな顔になつて女は男にくちづけした

押しつぶされびつくりしてゐる男は急に戦争直後のこの公園でのことを思ひ出してゐた

戦争中は蘇鉄のある所は高射砲陣地だつた

戦後になつてもそこは赤土のままだつた

あの時の少女はどうしてゐるだらう

死んでしまつたか 老いてゐるか

スカートの上からふれたことをあの人も感じたのだらうか

はげしいくちづけは騒音の中でつづいてゐる

女は言つた

「好きよ」

男は自分について考へてゐた

「俺はこんな程度のドン・ファンなんだな」

公園は夜になつてからが面白い